

2026 年 7 月 5 日

大腸癌研究会
第 5 回大腸癌治療ガイドライン作成委員会(2025 年開始) 議事録

日時：2026（令和 8）年 7 月 2 日（木）10:00-10:30

場所：広島コンベンションホール 3F 大ホール 3A

（ZOOM web 会議併用）

司会：絹笠祐介

出席者（50 音順、敬省略）

委員：赤木智徳、秋吉高志、石原聡一郎、上原圭、岡志郎、賀川弘康(web)、梶原由規、
加藤健志(web)、川上尚人、絹笠祐介、小林宏寿、斎藤豊、塩澤学、塩見明生(web)、
篠崎英司、高島淳生、瀧山博年、谷口浩也、塚田祐一郎、塚本俊輔、堀田欣一、室伏景子、
森田智規（web）、

事務局：石黒めぐみ、山内慎一

陪席：現地 35 名、Web5 名

議事録

1) 報告

- ・「2026 年版」が 2026 年 7 月発刊となった。
- ・販売部数についての報告があった。

2024 年版：約 16,000 部（前回報告 15,900 部）

電子版：約 1,600 部（前回報告 1,400 部）

2005 年～2024 年版累計：約 229,880 部（前回報告から 300 部増）

- ・「2026 年版」の発刊をもって、任期満了にて委員長が交代となることが報告され、新委員長が紹介された。

2) 今後の委員会に関する検討など

- ・ガイドライン作成の基本方針確認

日本の医療制度の実情を踏まえたガイドラインを維持していくこと、専門医療機関のためだけではなく、幅広い一般診療現場の医師にとって有用なガイドラインであるべきこと、冊子としての分量を極力少なくするよう努めるべきこと、などを確認した。

- ・各領域からの振り返りと課題

- ① 内視鏡領域：規約改定への対応や内視鏡治療後追加手術の適応に関する記載の充実が課題として挙げられた。
- ② 外科領域：術前治療と upfront surgery に関する日本特有の考え方の発信意義について確認した。
- ③ 薬物療法領域：費用対効果の評価や薬剤費の記載を考慮すべきことが挙げられた。

- ④ 放射線領域：ガイドライン作成を通じ、多領域間で放射線治療の意義や限界などにつき共有できたことが成果として挙げられた。新たな治療対象への対応の必要性についても言及があった。

・全体的な課題と今後について

- ① 今後のガイドライン作成にあたり、委員や協力者への若手医師の参画促進が重要であることを確認した。
- ② 次回改訂では、CQ だけではなく、本文各論の見直しも重要な課題であることを確認した。
- ③ その他の課題として、分量削減のための方策検討、医療経済評価の導入検討、発行部数増加のための対応、AI による情報利用への対策、Future Research Question の記載、などが挙げられた。
- ④ 改訂までの期間が短いこともあり、新委員長を中心として新たな委員会を近日発足させ、次回改訂に向けた準備を早急に進めていくことが紹介された。

以上

文責：山内慎一（事務局）